

スズラン(ユリ科)とスズラン(ラン科)の和名考

札幌市 松井 洋

はじめに

『日本草本植物総検索誌』(杉本、1979)の和名索引でスズランと引くと、スズラン(ユリ科)……324、スズラン(ラン科)……468、とある。スズランの和名はユリ科とラン科の両方に使われている。

『改訂版新日本植物誌』(大井、1992)にユリ科はスズラン、キミカゲソウ—*Convallaria keiskei* Miq.、ラン科はカキラン、スズラン—*Epipactis thunbergii* A. Gray とあり、ラン科のスズランはカキランの別名として扱っている。

他の図鑑、『日本の野生植物』(佐竹編、1982)、『改訂増補牧野新日本植物図鑑』(牧野、1989)にも同様の記載である。ただ、『原色日本植物図鑑』(北村他、1964)にはユリ科スズラン、ラン科カキランとあり、それぞれに別名の記載はない。ここに、スズランの和名を調べてみることにする。

スズラン名の植物

『植物和漢異名辞林』(杉本、1929)には、[すずらん] (一) 俗称スルハきみかげさうデアル其ノ部ヲ見ヨ。⇒[きみかげさう] 君影草(ゆり科)。別名 すずらん(通称! すずらんハ之デアル同名異種ノモノアリ)。[すずらん] (二) かきらんヲ見ヨ。俗称すずらんハ之ニ非ズ。⇒[かきらん] (らん科)。別名 すずらん(通俗ニすずらんと称スルハ之ニ非ズきみかげさうヲイフ)。

[すずらん] (三) いちやくさうヲ見ヨ。⇒[いちやくさう] (一) 鹿蹄草(いちやくさう科)。別名 あきおもて、あたごごけ、かがみくさ、かがみさう、きつかふさう、すずらん、のあふい、べつこうさう、まきをもて、やまさいしん。一薬草。

[いちやくさう] (二) べんけいさうヲ見ヨ。⇒[べんけいさう] 景天(べんけいさう科)(別名の項略す)。

スズラン名はユリ科、ラン科の他に、イチヤクソウ科の鹿蹄草・一薬草の別名としても使われている。だが、『大言海』(大槻、1933)には、すずらん 鈴蘭 弁慶草ニ同ジとある。さらにスズラン名はベンケイソウ科のベンケイソウのことも意味するのだろうか。

江戸時代の後期にあたる、当時の方言・辞典の『物類称呼』(越山、1775)には、[鹿蹄草] すずらん○大和にて○まきをもてと云 江戸にて○べつかうさうという

鹿蹄草^{未詳}江戸には四谷大宮八幡社地に見えたり 同名別種あり。

[景天] いきくさ^{はちまんさう}○京にて○べんけいさうと云 筑紫にて○ちとめといふ 江戸にて○いちやくさうと云、と記載されている。

さらに、『重訂本草綱目啓蒙』(小野、1856-1862)には、[鹿蹄草] イチヤクサウ ノアフヒ^{若州} アタゴツケ^{越州} カミミサウ^{淡州} カミミグサ^{江州}